

1. 職名・氏名 准教授・普照早苗2. 学位 学位 修士（博士前期課程）、専門分野 看護学、
授与機関 千葉大学大学院看護学研究科、授与年月 平成12年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

- a. 「在宅看護論」（2単位：2014～2015年度/1単位：2016年度以降）
2年次後期（いずれも2014年度着任時から担当）
- b. 「在宅看護演習」（1単位）3年次前期（2017年度から新規開講）
- c. 「家族看護論」（1単位）2年次後期（2014、2015年度担当、2020年度から再担当）
- d. 「在宅看護実習」（2単位）3年次後期～4年次前期（2014～2016年度）
3年次後期（2017年度～）
- e. 「看護理論」大学院（2単位）1年次前期
- f. 「成人慢性看護学特論Ⅲ」大学院（2単位）1年次前期
- g. 「成人慢性看護学演習Ⅰ」大学院（2単位）1年次後期（*2016、2017年度は開講せず）
- h. 「地域看護学特論」大学院（4単位）1年次前期（2017年度）
- i. 「地域看護学演習」大学院（2単位）1年次後期（2017年度）
- j. 「地域看護学特別研究」大学院（10単位）2年次（2018年度）
- k. 「在宅看護学特論」大学院（4単位）1年次前期（2018年度～*受講者なく開講せず）
- l. 「在宅看護学演習」大学院（2単位）1年次後期（2018年度～*受講者なく開講せず）
- m. 「在宅看護学特別研究」大学院（10単位）2年次（2019年度～*受講者なく開講せず）

②内容・ねらい

- a. 在宅療養者とその家族を対象に、看護・医療・福祉・保健のあらゆる面から生活の質を高めるよう他職種と連携協働しながら看護の役割を果たす際の重要な視点を教授する。学生は本授業で初めて在宅看護に接するため、在宅看護の基本的事柄を中心に、看護の他分野との関連性も意識させることをねらっている。
- b. 「在宅看護論」で学んだ概説をもとに、在宅看護領域で必要となる知識や実践的ケア技術をグループワーク、演習等による修得させる。3年次後期から実施する「在宅看護実習」へつながる思考の基盤づくりをねらう内容としている。
- c. オムニバス授業のうち、後半（第9～15回）を担当（2014～2015）。3年次実習前という時期に、学生なりの「家族観」を考えさせる。今後看護実践に取り組むうえで「家族とは」という各自の家族観を醸成させるための第一歩を培う内容としている。2020年度からは、全8回授業を全て担当する予定。
- d. 訪問看護事業所において、1事例を受け持ちとし、訪問看護師と同行訪問する中で実際の看護の展開を行う。訪問看護中の看護実践も教員や看護師と相談を重ね、ケアの一部に関して責任を持って実施する機会をもつ。学生が、自立的に看護職と意見交換できるよう意識して促している。地域包括ケアシステム・地域共生社会を意識し、多職種連携の実際も学ぶ。
- e. 「看護理論」大学院
オムニバス授業で展開。主に、セルフマネジメントの視点から考える看護モデル、自己効力感（セルフエフィカシー）、エンパワメント、行動変容、病みの軌跡、カルガリー式家族アセスメントモデルを教授。院生には、自身のこれまでの看護実践を振り返りながら、より研究的に発展させていくための方策を考えさせることを意図した。
- f. 「成人慢性看護学特論Ⅲ」大学院
オムニバス授業で展開。主に、慢性病を持つ人及びその家族の在宅生活を支援するシステム、

病院と在宅のシームレスなかかわり、多職種連携とケアコーディネーターとしての視点について、訪問看護師の立場から教授。授業には、退院支援専門の非常勤講師及びケアマネと慢性看護 CNS の資格を持つ現役訪問看護師をゲストに招聘し、特別授業やグループワークを実施した。

- g. 「成人慢性看護学演習 I」 大学院（2 単位）1 年次後期（*2016、2017 年度は開講せず）
- h. 在宅看護学領域における概念・理論を理解し、地域で生活する人々の現状や看護展開方法を探究する内容。現代日本における在宅看護の特徴を広域的・個別的両視点から深く情報収集し、課題の発掘を自立的に行なえるよう教授する。
- i. 「地域看護学特論」を踏まえ、看護学研究の視点から院生が追究したい課題を発掘する。院生が自立して、過去の文献検討や批評を実施し、現在在宅看護領域における課題の絞り込みを行なう。訪問看護の実践現場に参加し、現状把握、課題の焦点化を実施し、研究計画書を作成する。研究倫理における基本的知識・考え方を身につけるよう指導する。
- j. 「地域看護学特別研究」は、大学院 2 年次生を対象とし、特論、演習を踏まえて、自ら設定した研究テーマの調査実施に取り組む。研究倫理審査書の作成から、調査実施、分析に渡って個別にゼミを開催し、基本的な研究方法、結果の整理・多角的な分析、考察過程が論理的に学べるようにディスカッションを深めた内容とした。

以下は、2018 年度から「地域看護学」を公衆衛生と在宅領域に分け、新規科目名となった。内容とねらいは、上記の h、i、j を踏襲している。

- k. 「在宅看護学特論」 大学院（4 単位）1 年次前期（2018 年度～*受講者なく開講せず）
- l. 「在宅看護学演習」 大学院（2 単位）1 年次後期（2018 年度～*受講者なく開講せず）
- m. 「在宅看護学特別研究」 大学院（10 単位）2 年次（2019 年度～*受講者なく開講せず）

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

- a. テキストを用いて基本的な事柄を説明しながら、教員自身訪問看護師であった経験も踏まえてイメージしやすいように具体例をまじえて解説した。また、DVD や画像など視聴覚教材も最新の物を現場の訪問看護ステーションの協力も得て作成、活用した。毎回の講義後、感想や疑問点を所定の用紙に書かせ、翌週の講義ではそれについて解説を加え、なるべく早期に疑問点を理解できるようにした。さらに現役の訪問看護管理者をゲストスピーカーとして招聘し、在宅ターミナルの看護の実際について講義を依頼、イメージ化を深める工夫をした。
- b. 2 年次後期最終日に実施した「在宅看護論」の筆記試験を学生へ返却し、国家試験も意識しながら知識の確認を行なう時間をもった。演習は、現在現場で実施している看護実践ケアに即して、実際の居宅環境に模した N153 福祉実習室で足浴演習と洗髪器を用いた洗髪演習を 1 グループ 4 人の学生編成で実施した。また、自宅学習として口腔ケアを家族に対して実施する課題も課した。
- c. 対象が成人・高齢者世代であり、また並行して行う在宅看護論とも密接な関係のある内容であることから、在宅看護論で紹介した事例も想起させながら進行に努めた。また、次年度 3 年次の在宅看護実習における家族のかかわりにもつながることを意識させたレポート課題を提示し個人ワーク・グループワークを実施した。
- d. 実習中、学生が自立して学ぶことを意識させるため、教員-看護師間の打ち合わせを事前にしっかり行い、現地では学生が看護師と相談し、積極的な意見交換ができるようにオリエンテーションを緻密にしっかりと行う。実習終了時は、毎日学生に電話連絡でその日の状況を担当教員に報告させ、学習の進行状況の確認、また問題発生時には早期の対応に努めている。さらに、学生の理解力を図る指標として、口頭だけのやり取りだけではなく、記録に学習内容が反映させているかを把握するため、学生が訪問看護事業所に不在時にも教員が訪ね、実習記録の確認、看護職からの評価の聴き取り等、確認を頻回に行っている。
2022 年度からの新カリキュラム開始に向けて、より在宅看護実習の充実を図るため現地看護職との教育・指導方法の検討を行っている。
- e. 「看護理論」 大学院
基本的、最新の知識を確実に身につけられるよう視覚的資料、スライド写真を多用した。また、院生が 3 人と少人数であったことから、グループワークを講義の間にはさみ、互いにこ

れまでの看護実践経験を共有し、意見交換できるように双方向授業とした。

f. 「成人慢性看護学特論Ⅲ」 大学院

ここ数年、退院支援や地域包括ケアシステムに取り組む施設がますます急増していることから、最新知識と発展的取り組みをしている施設の事例紹介などを実施。非常勤講師との質疑応答やディスカッションを中心に授業展開を行なった。理想論ではなく、現実的にどのような改善策を図っていくかを考えさせるように努めた。

h. 院生が、在宅看護経験のない者であったため、在宅看護学の基礎から実際の活動状況まで、歴史経過を含めて教授した。また、在宅看護領域の研究の動向についても、文献研究を学会報告する目標を立て、システムティックレビューを行なう過程で、知識を増強し、理解が深まるように努めた。

i. 演習では、学部3年次生の在宅看護実習の1クールに院生を参加させ、在宅看護における看護過程の一連を学ぶ機会を創った。その際、現地訪問看護師の活動状況や考え方にできるだけ多く触れる機会を設け、院生の研究テーマ追究の助けとした。

j. 「地域看護学特別研究」は、院生との研究スケジュールを半期ごとに明確にし、看護研究に関連する学会や研修会にも参加、学びの確認と整理をゼミ中にも実施した。その学びを活かし、調査実施後の結果の確認、分析方法の指導などは、ゼミ以外にもメール、電話等でも指導・助言した。ほか、論文作成の添削、研究発表のためのプレゼンテーションの方法等に関しても院生が初学者であるため詳細に指導を実施した。

以下は、2018年度から「地域看護学」を公衆衛生と在宅領域に分け、新規科目名となった。内容とねらいは、上記のh、i、jを踏襲している。

k. 「在宅看護学特論」 大学院（4単位）1年次前期（2018年度～*受講者なく開講せず）

l. 「在宅看護学演習」 大学院（2単位）1年次後期（2018年度～*受講者なく開講せず）

m. 「在宅看護学特別研究」 大学院（10単位）2年次（2019年度～*受講者なく開講せず）

(2)非常勤講師担当科目

①担当科目名（単位数） 開講学校名：福井市医師会看護専門学校（2018年度）
在宅看護論方法論Ⅲ（1単位）

②内容・ねらい

在宅療養者の身体・精神・社会面のみならず、介護・家族状況や療養者を取り巻く環境等の幅広い視点で生活者である対象者を捉えることができるよう教授する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

該当学年が2年生ということで、次年度の実習も見据えて在宅看護過程の展開を演習方式で学ぶ。まずは自分の力で考えることができるよう、個人ワーク後、グループワークを実施した。個々の学生の到達レベルを評価するために、個人ワークは具体的かつ丁寧に添削しレポート返却を実施した。

④本学における業務との関連性

この科目は、本学の3年次前期生の授業に該当する。演習時の事例選定など幅広く本学授業にも活用可能となった。

(3)その他の教育活動

- ・「応用援助技術ゼミ」（1単位）3年次前期（2014）における事例作成および演習参加
- ・「福祉のまちづくり論」（2単位）1・2年次選択授業・集中講義（2016～）講義及びフィールドワーク、グループワーク担当

4. 研究業績

(1)研究業績の公表

①論文

②著書

- 医学書院テキスト系統看護学講座「成人看護学6 内分泌・代謝」（第14版、2015～）共

<p>著、そのうち、甲状腺疾患患者の看護（p 205-209）、バセドウ病患者の看護（p 286-294）執筆担当。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ナーシンググラフィカ成人看護学 3「セルフマネジメント」（第3版、2015～）共著、3-2章エンパワメントのアプローチ（p 46-52）執筆担当 ● ヌーヴェルヒロカワ成人看護学「慢性看護論」（第3版、2015～）共著、慢性期にある人への看護援助・アドボカシー（p 160-164）執筆担当 ● 医学書院テキスト系統看護学講座「成人看護学 6 内分泌・代謝」（第15版、2019～）共著、甲状腺疾患患者の看護（p 210-228）、バセドウ病患者の看護（p 296-304）執筆担当。 ● 「ナースが行う入退院支援：‘その人らしく生きる’を支える」共著、メヂカルフレンド社（執筆中、2020年6月刊行予定）
<p>③学会報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第5回日本在宅看護学会学術集会（11月）示説発表「A県下訪問看護ステーション管理者が抱える課題と改善に向けての方策」（筆頭。梶助手と共著）。GoodPoster 賞受賞。 ● 第6回日本在宅看護学会学術集会（2016年11月20日）口演発表（筆頭）「A県下訪問看護ステーション管理者が抱える課題と改善に向けての方策 - 第2報 -」、第6回日本在宅看護学会 ● 第22回日本在宅ケア学会学術集会（2017年7月15～16日）示説発表（筆頭）「訪問看護ステーションにおける看護実践の現状と管理者が抱える課題および改善策の検討 - 平成26～28年度のインタビュー調査最終報 -」 ● 第21回日本看護管理学会学術集会（2017年8月19～20日）インフォメーション・エクステンジ（共同発表者）「病院看護師-訪問看護師間の患者情報をつなぐためのツール開発」 ● 第24回日本家族看護学会学術集会（2017年9月2～3日）示説発表（共同研究者）「在宅看護実習を通しての家族に関する学びの内容 ～実習終了後の学生レポート分析から～」 ● 第49回日本看護学会-在宅看護-学術集会（2018年7月27日（金）・28日（土）佐賀）口演発表（共同研究者）「訪問看護師の家族看護実践を振り返る自己評価票の作成および活用への検討」 ● 第8回日本在宅看護学会学術集会（2018年12月8日静岡）口演発表（共同研究者）「A県における小児訪問看護の体制整備および質向上のための方策」 ● 第45回日本看護研究学会学術集会（2019年8月20、21日大阪）示説発表（共同研究者）「終末期がん療養者および家族の最期の療養の場決定を支援する訪問看護師の役割意識」 ● 第33回日本看護研究学会 近畿・北陸地方会学術集会（2020年3月21日滋賀）示説発表（筆頭・共同研究）「地域におけるオストメイトの療養生活支援のための教育プログラム開発 その1～訪問看護による支援の現状と課題～」
<p>④その他の公表実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「福井県内における小児訪問看護の体制整備および質向上のための方策」共同研究報告書 2017～2019（筆頭著者）
<p>(2)学会活動等</p>
<p>学会でのコメンテーター、司会活動</p>
<p>学会での役職など</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本看護研究学会第32回近畿・北陸地方会学術集会（福井2019）：事務局長
<p>学会・分科会の開催運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本看護研究学会・広報委員会、リレーブログ編集担当（2015～） ・ 国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会第9回学術集会・企画委員（福井2019） ・ 日本看護技術学会第18回学術集会・企画委員（福井2019）
<p>(3)研究会活動等</p>
<p>① その他の研究活動参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本看護業務研究会・訪問看護版/介護施設版作業部会・部会員（2015～2018）
<p>② その活動による成果</p>

・HCbooks 訪問看護版マスター版作成。現在、訪問看護ステーションにてヒヤリング調査終了。 (2015～2018)。
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会
②国・地方公共団体等の調査受託等
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 <ul style="list-style-type: none"> ・看護協会実習指導者講習会「在宅看護」講義（2コマ6時間）（2014～） ・看護協会看護基礎教育検討委員会委員（研修会等の企画・運営）（2015～2017） ・看護協会看護研究グループ指導・講師（2015～） ・福井赤十字病院看護研究学会・指導講師（2015～） ・勝山市地域包括支援センター事例検討会、事例相談会講師（年8回）（2015～2019） ・福井県訪問看護ステーション連絡協議会 賛助会員（2015～2018） ・福井県看護協会訪問看護推進協議会、委員（2018～）
⑥その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講 <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの看護学科「在宅看護学領域」でミニレクチャー、体験コーナー担当（2015、2019） ・大学院 公開講義「これからの訪問看護師に求められるもの」（県内訪問看護師向け、2017年8月）
② 社会人・高校生向けの講座 <ul style="list-style-type: none"> ・高校2年生向け大学出張講座開放講義（於：金津高校 2014） ・高校2年生向け大学出張講座開放講義（於：鯖江高校 2015） テーマ「大学で看護を学ぶってどんなこと？」「模擬講義：在宅リスクマネジメントとは」 ・高校2年生向け大学入試説明会（於：三国高校 2016） ・高校2年生向け大学模擬授業体験授業（於：鯖江高校 2018） テーマ「バイタルサイン～生命の徴候～をはかってみよう」 ・高校2年生向け大学入試説明会（於：坂井高校 2019）
③ その他 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護実習指導者会（3月定例）を大学にて開催し、実習に関する情報交換を実施（2014～） ・看護系大学・短期大学・看護師養成所実習打ち合わせ会実施。（年2回；1月、8月）
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） <ul style="list-style-type: none"> ・福井大学医師および看護教員との協力で、小児糖尿病サマーキャンプのボランティア本学窓口担当（2015年8月～2017） ・食生活アドバイザー3級資格取得（2018～） ・薬膳コーディネーター資格取得（2018～）

・野菜スペシャリスト資格取得 (2018～)

6. 大学の管理・運営

(1) 役職 (副学長、部局長、学科長)

(2) 委員会・チーム活動

- ・吉林大学との学術交流 (2014.8.19～26) 実行委員メンバー (2014)
- ・高度実践看護師 WG チーム：メンバー (2014～2015)
- ・大学院看護マネジメントコース WG：メンバー (2016)
- ・フィンドレー大学交換留学 WG：メンバー (2016～2017)
- ・実習検討委員会：委員 (2014～2015)
- ・カリキュラム委員会：委員 (2014～)
- ・大学院研究科：修士論文委員 (2015～2016)、パンフレット作成委員 (2015)
- ・看護学科 3 年次生担任 (2015)
- ・看護学科 4 年次生担任 (2016)
- ・看護学科親睦係 (2015～2016)
- ・学生就職支援委員会委員 (2017～2018)
- ・学生支援委員会委員 (2018)
- ・キャリアセンター連絡会委員 (2017～2018)
- ・懲戒委員会委員 (2017～2018)
- ・キャリアセンター協議会委員 (2017～2018)
- ・中期計画検討ワーキンググループ (2017～2018)
- ・看護学科倫理小委員会委員 (2017～2019)
- ・国際部会ワーキンググループ (2019～)

(3) 学内行事への参加

- ・F レックス FD 合宿研修：大学教育の質保証に向けた教学 IR、LMS 活用について (2015/9/4、5)
- ・「指導過程の構造について・指導過程を評価する基本的考え方について」(千葉大学和泉淑子講師)、看護学科 LED 会研修会 (2015.3.8)
- ・「フィジカルアセスメント・臨床推論の進め方」(名古屋大学大学院・山内豊明教授) 看護福祉学研究科特別公開講義 (2016.6.3)
- ・「大学の信頼回復に向けたコンプライアンス研修～教育・研究活動とコンプライアンス」野坂佳生弁護士 (2016.8.3)
- ・看護福祉学部「ハラスメント研修」中野満知子 (オフィス「想」代表) (2017.1.4)

(4) その他、自発的活動など

- ・広報活動：看護協会の広報誌 (季刊誌)「広報ふくい」に卒業研究指導の様子が表紙写真で掲載 (2016.2 月号)。